

1～160列部門 テクニカル賞 末梢性肺動脈瘤

札幌医科大学附属病院 様

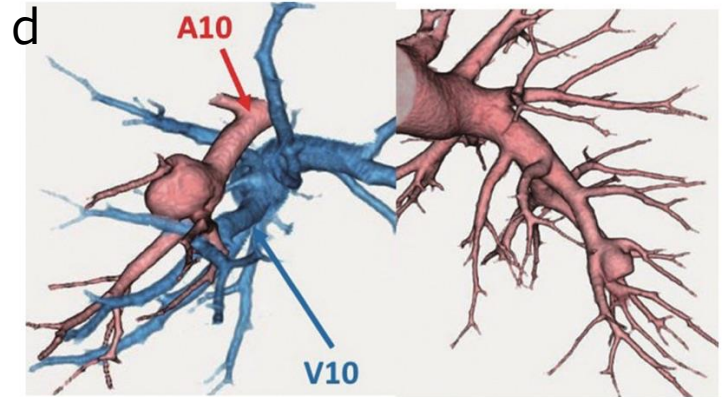
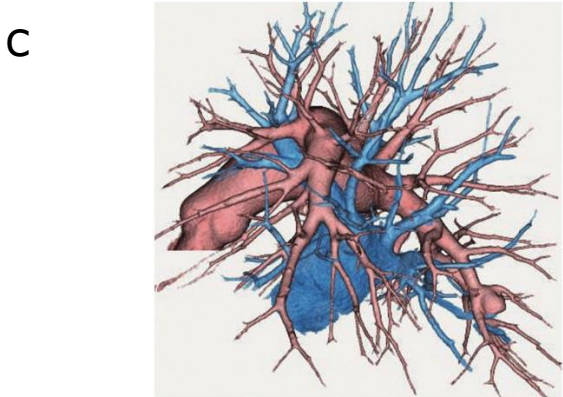
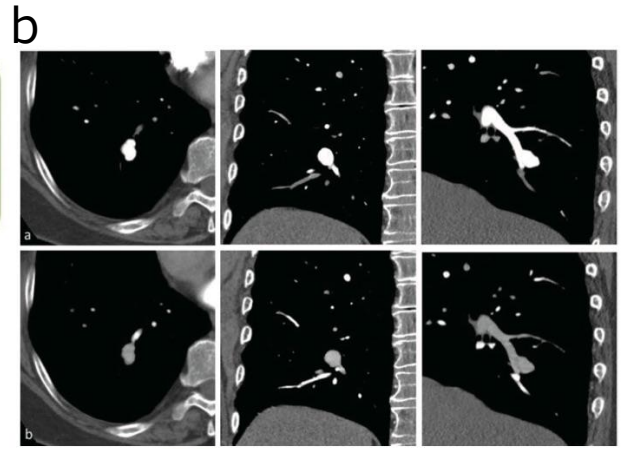
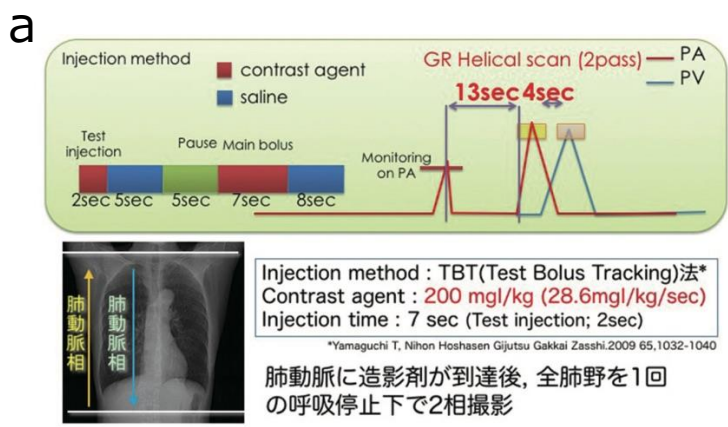
検査目的：右側上顎口蓋部腫瘍術前スクリーニング胸部CTにて、右S10に肺動静脈奇形を疑う所見があり精査希望。

クリニカルコメント：肺動脈瘤は文献的にも0.007%と非常に希少な症例である。本症例はナイダスを伴う肺動静脈奇形を疑ったが、CT検査により右 A10bcの分岐部に18×12mmの末梢性肺動脈瘤と診断できた。

テクニカルコメント：1相撮影では肺動静脈を明確に分離することは難しい。今回、ナイダスを伴う肺動静脈奇形を疑ったが、TBT法を用いた2相撮影により、それぞれを正確に分離できた。その上、動態的情報を寄与することで肺動脈瘤を明確にできた。

審査員コメント：骨盤内の脾臓に連続する静脈、動脈が分離して描出されており、その特徴的な走行と相まってインパクトのある画像となっている。発生学的に興味深い症例。

使用装置	装置列数	撮影スライス厚	画像スライス厚	再構成間隔	撮影時使用列数
Aquilion PRIME	80	0.5mm	0.5mm	0.5mm	80
スキャンモード	管電圧	管電流	スキャン速度	撮影範囲	撮影時間
HelicalScan	120kV	V-EC使用、SD12 (画像スライス厚 5mm,100mA-450mA)	0.35s/rot	300mm	10sec
CTDI	DLP	画質オプション	再構成関数	Work Station	Real Prep
101.1mGy	390.9mGy・cm	AIDR 3D e-Standard	FC04	ZIOSTATION2	使用(目視)
造影剤名	造影剤注入方法		造影プロトコル		
イオパミロン	TBT法 造影剤量:200mgI/kg 注入時間:7s		造影剤6.0mL/s(12mL)→生食6ml/s(30mL)→休止 →造影剤6.0mL/s(40mL)→生食6ml/s(40mL)		



a : 1 呼吸停止下にて2相撮影を行った。First Phaseはテスト用造影剤が肺動脈ピーク到達後13秒後とし、Second PhaseはFirst Phase撮影4秒後に設定した。

b : MPR画像 (a : First Phase、b : Second Phase)。

First Phaseにて造影され、Second PhaseではWash outされる肺動脈瘤を観察。

c : VR画像。右S10に肺動脈瘤を観察。

d : VR画像。右A10bc分岐部に肺静脈に近接する18×12mmの肺動脈を観察。